

# 地域に愛され地域と歩む長生特別支援学校の魅力

千葉県立長生特別支援学校

## 1 学校概要

本校はJR外房線上総一ノ宮駅の南東約3キロに位置し、近くには東京2020オリンピックサーフィン競技会場の釣ヶ崎海岸があるなど、自然豊かな環境に恵まれた場所にあります。一方で、海から400m、海拔5m、近所には高台がないという立地環境は、津波からの避難課題を抱えています。平成27年の千葉県立大網白里特別支援学校新設に伴う分離により、現在は小学部から高等部までの74人の児童生徒が、「夢に向かって輝け！笑顔！みんなで心豊かにたくましく」の教育目標のもと学んでいます。

## 2 地域との関わりを生かして

本校が今回「魅力ある県立学校づくり大賞」へ応募した内容は、これまでの地域との関わりを振り返り、今後の地域連携に向けた課題と方向性を明確にするための取り組みです。「潮風に向かって育て長生っ子」のスローガンのもと、海の恵みを題材にした教育活動の数々。そこには常に地域からの支援がありました。

さまざまな学びの体験ができた地引き網体験、オリパラ教育でのサーフィン体験等々。特にプロサーファーの方々が講師となって実施した小学部のサーフィン教室では、初めてサーフボードにライディングした児童はもちろん、参観の保護者からも感涙の言葉が会場のプールにこだましました。また、パラリンピックの聖火リレーでは、一宮町の採火式が本校で開催されました。児童生徒一人一人が炎をかたどったカードにメッセージを書き、それを大きな聖火トーチが描かれた台紙に貼り合わせた「長生特別支援学校の火」として、一宮町の採火に加えていただきました。一宮町とは、上総国一宮まつりでも交流を行い、中学部生徒が踊りを学んでいます。

## 3 伝統的な取り組みと教育行政機関との連携

次に、伝統的な取り組みとして「地域相談会」「長養太鼓（和太鼓）」があげられます。「地域相談会」は、地域の特別支援学校としてのセンター的な役割に対し毎年重宝され感謝されています。

また、新たな試みとして、「特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業」の活用があります。地域の生涯スポーツ関係機関との連携を目指し、令和3年度には、本校と地域の体育館をオンラインでつないだ「障害者スポーツ大会（ボッチャ体験）」を開催しました。

そして、何よりもこの地域に共通の課題である「津波の脅威」への対策について、地域が一つになって取り組んでいけたらと考えています。

そこで、令和2年度より「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」を活用して、本校が長年培ってきた防災教育の成果を開示し、地域の行政、福祉、教育機関と保護者の皆さまによる地域防災についての協議の場としています。令和3年度には、津波への不安の有無、その内容、津波への備え、災害時にできることなどの項目で事前にアンケートを依頼しました。アンケート結果をもとに、行政機関と教育機関の連携の視点、家庭と放課後等デイサービスの視点、本校防災計画と地域の実態からの視点の3班による班別協議を行い、避難マニュアルの改善につなげました。PTAからの移転要請を続けつつ、現実的な地域連携による防災活動を展開できたらと考えています。



令和4年度からは、これまでの開かれた学校づくり委員会をコミュニティ・スクールに発展させて、より広く地域の声を聞き地域のニーズに見合った地域貢献を目指します。

本校は、これからも地域のために積極的に取り組んでまいります。